

山行報告 北アルプス縦走(上高地～親不知)

【山域】北アルプス南部～北部

【日時】2016/8/9～2016/8/21 12泊13日

【参加者】川口(単独行)

【天候】下記参照

2016年8月9日～21日にかけて、12泊13日で上高地から日本海(親不知)まで北アルプスの山々を縦走していました。そもその発端は、都道府県毎の最高峰を巡る旅の一環で奥穂高岳(長野県・岐阜県の最高峰)と小蓮華山(新潟県の最高峰)をつなげよう、と思ったところからでした。初日から最終日までの行程を振り返りつつ写真と共にまとめてみたいと思います。この時持参した装備に関しては【<http://ameblo.jp/mistereverfree/entry-12192630744.html>】こちらのブログにてまとめてあります。

■初日(2016/8/9)■

◇天気◇

晴れ→(前穂高岳登頂以降)曇り→(18:40以降)晴れ

◇行程◇

河童橋(5:38)→天然クーラー(6:27)→岳沢小屋(7:46)→紀美子平(10:14)→前穂高岳(10:46)^{5分滞在}→奥穂高岳(13:19)
→穂高岳山荘(13:50)

※コースタイム比: x0.95



沢渡駐車場から上高地へ行く始発のバスに乗り、いざ出発。上高地に到着後はトイレなどを済まし、前穂高岳～奥穂高岳経由で穂高岳山荘まで向かうため河童橋を越え岳沢小屋へ向かう。約2週間分の食料が入ったフル装備のザックはやはり重く、重太郎新道をゆっくり登っていきました。徐々に高度を上げて行き、前穂高岳への基点である紀美子平に10時過ぎにようやく到着。ザックを降ろし空身で初めて前穂高岳に登りました。前穂高岳山頂までは快晴だったのですが、

徐々に曇ってきて以降穂高岳山荘に到着するまでずっと曇り。奥穂高岳山頂も残念ながら曇りでしたが、今回の旅の目的である都道府県別最高峰の1座を初日に落とせたのは嬉しかったです。



テント場に到着してゆっくりしていたら、どうも天気が安定せず少しだけ雨が降ったりもしましたが、18:40 によろやく雲が消え快晴。奥穂高岳(山頂は見せませんが)と月のコラボレーションは、初日に標高を稼いだことによる疲れを解消してくれました。穂高岳山荘にはUSB 充電設備があり、使用料は1回 200 円。これは使わない手はないということで、充電させてもらいました。非常に設備の整った小屋で心底驚いたのを覚えています。

■2日目(2016/8/10)■

◇天気◇

終日快晴

◇行程◇

出発(4:40)→湊沢岳(5:00)15分滞在→最低コル(6:15)→北穂高(7:38)→Hピーク(9:43)→南岳(12:02)→中岳(13:24)→大喰岳(14:01)→槍の肩(14:30)

※コースタイム比: x1.00

湊沢岳山頂からご来光を見よう、ということで予定よりも少し早く出てご来光に間に合わせました。この日は終日快晴。この日のご来光+朝焼けは目に焼きついて、この後の行程を頑張るための原動力になりました。次のページの3枚も湊沢岳山頂から撮ったものですが、3枚のうち下の写真には遠く富士山が見えています。



湊沢岳山頂からのパノラマ写真。







↑ 南岳山頂より。振り返れば辿ってきた道が。南岳小屋もばっちり。

この後の涸沢岳～北穂高岳間は、後半の不帰嶮と並び今回の山行の中でも屈指の危険地帯でした。とにかくザックが重いのでバランスをとるのが難しく、慎重に足を運んで鎖場を突破していきました。大キレットをすばやく突破し、前年来た際の記憶から「あとは確か楽だったな～」なんて楽観視していたのですが、南岳～中岳間のアップダウンが結構強烈で楽観視していた分精神的に堪えました。やはりどのルートも全力で挑まないと駄目ですね。14:30 までに到着しないとテント場が埋まってしまうかもよ！と、別の方に声をかけて頂いていたので、目標を 14:30 到着に設定し先を急ぎました。無事目標の時間に到着し、テント場も確保。

一休みしていたところ、ちょっとしたハプニングが。記憶ではズボンのポケットに入れていた iPhone の充電ケーブルが見当たらない。1 人テント内で焦り片っ端から探してもどうしても見つからず、「これは困ったぞ」とかなり落ち込みました。以降のバッテリー計画を練り直して、テントの中で一人ふさぎこみながら寝袋に入ったところ、なぜか件のケーブルが寝袋の中に！これは本当になぜその位置にあったのかさっぱり分からず、個人的には落とした場所から寝袋の中にワープしてきたとしか思えませんでした(実際はおそらく前夜寝ている最中にポケットから落ちたのでは)。見えない力に本気で感謝。ホッと一息つき、次の日に備えて就寝。基本的に毎日 20 時の就寝を心がけていました。

■3 日目(2016/8/11)■

◇天気◇

終日快晴

◇行程◇

出発(5:22)→樅沢岳(8:32)→双六岳(10:18)→三俣蓮華岳(11:37)10分滞在→三俣山荘(12:40)

※コースタイム比: x0.95



3 日目以降はいよいよ行ったことのない山域に入るので気合が入りました。歩いてみたかった西鎌尾根は歩き甲斐がありそうで、朝からワクワクしていました。樅沢岳を通過し、双六小屋で仲良くなった人と盛り上がり少し休憩して双六岳へ。双六小屋から双六岳へのアプローチは今回の 13 日の中でも指折りの急登で、特に最初の分岐までの 20 分間がきつかったのを覚えています。その後順調に先へ進み、三俣蓮華岳へ。振り返れば歩いてきた西鎌尾根がバーン！と見え、さらにいずれ挑戦してみたい北鎌尾根もばっちりと捉えることができ、最高の眺めの中少し山頂でゆっくりしました。

この日はコースタイムに余裕があったので途中いろんな人と話したり休憩したりしながらゆっくり進み、ほぼコースタイムどおりの時間に山荘に到着。テント場を確保しゆっくりしていたところ人がどんどんやってきて、なんだ？と思っていたらこの日は「山の日」だったのでした。他の人から聞いたところによると槍ヶ岳のテント場は朝 10:30 にすでに埋まったということで、「いったいどうやればその時間にたどり着けるのか」と少し不思議に感じたのを覚えています。この日もテント場の人と仲良くなり以降の行程を話したりして盛り上がり、20 時就寝。三俣山荘のテント場から見た鷲羽岳の堂々たる姿が非常に勇ましく、翌日の登高意欲を掻き立てられました。

■4 日目(2016/8/12)■

◇天気◇

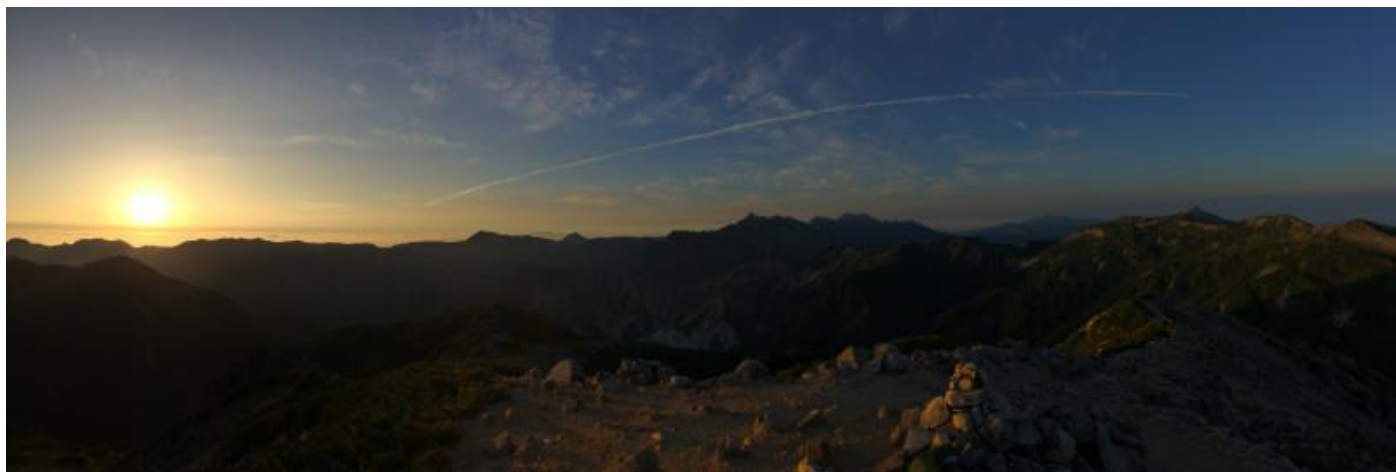
終日快晴

◇行程◇

出発(4:20)→鷲羽岳(5:22)10分滞在→ワリモ北分岐(6:15)→水晶小屋(6:47)→水晶岳(7:12)→水晶小屋(7:40)10分休憩→野口五郎岳(10:01)10分滞在→烏帽子小屋(12:52)

※コースタイム比: x0.88

4 日目。13 日間でどの日が一番良かったか、と聞かれたらまずこの日を挙げると言うくらい最高的一天でした。コースタイム的にご来光には間に合わないと思っていたのですが、少し早く起きたので早めに出て早歩きで鷲羽岳へ。見た目どおり実に楽しく登れる山で、見てよし登って良しの最高の山だ！なんて思いながら登っていましたが、結果的に景色もよしという一分の隙もない山でした。山頂に至る前にご来光の瞬間が訪れましたが、山頂に至った時点でもまだまだ朝焼けで忘れられない景色に息を吞みました。



鷲羽岳山頂からのパノラマ写真、今回の山行でもっとも気に入っている写真です。

朝から最高の気分にしたくれた鷲羽岳。気分が乗ったからかこの日は歩みが速く、ピストンする予定だった水晶岳にあっという間に到着。次ページ左上の写真は水晶岳の山頂から撮った写真です。ここの山頂もまた、奥穂高岳～西鎌尾根～鷲羽岳、と、歩いてきた道がバン！と目の前に広がって非常に感慨深い場所でした。水晶小屋以降の道はなかなか険しい道で(次ページ右上)、そこを越えると気持ちの良い稜線歩きが待っていましたが、野口五郎岳へと続く道の最終アプローチは結構きつかった(次ページ左下)！山頂からは水晶岳も含む歩いてきた道が見えてここもまた最高でした。

野口五郎岳から烏帽子小屋への道程は、最初はよかったものの最後に烏帽子小屋へ急激に高度を下げる箇所です。足がヒューヒュー。しかもテント場を通り過ぎてから小屋まで結構登るので、野口五郎岳以降の道を遮るものがなく暑かったこともあり最後のほうは大変でした。そしてここのテント場、標高が低いからか到着した時間が早かったからか(もしくはその両方か)酷暑！他の人は日傘など持って来ていましたが、そんなものを持って来ているはずもない私は小屋へ避難。小屋には翌日の目的地である船窪小屋から来たという3人組(それぞれ単独行)がおり、私も輪に入れてもらいワイワイと3～4時間楽しく話しました。お互い名乗ることもありませんでしたが、楽しい時間をありがとうございました。

こうして楽しい4 日目が終わり、反対に「最も厳しかった1 日」に数えられる翌日に続いていきます。余談ですがこの小屋で爪切りを借りました。すっかり持っていくのを忘れており...助かりました。



■5日目(2016/8/13)■

◇天気◇

曇り→(不動岳に至る途中より)晴れ

◇行程◇

出発(5:00)→烏帽子岳(5:34)→不動岳(7:56)5分休憩→船窪岳第二ピーク(10:09)→事件発生、停滞→船窪岳(11:54)→船窪小屋(時間未記録)

※コースタイム比: 停滞により不明

5日目は朝から曇り、というよりガス。予報ではまだ晴れのはずなので後に晴れるだろう、と信じて歩みを進めていきました。山頂ではガスってさっぱり何も見えなかった烏帽子岳を通過し、不動岳に至った時点でようやく晴れてきました。不動岳ではウサギのような動物が横切り、写真を撮る間もなく去っていましたがあれはウサギだったのだろうか。

さて、晴れたのはいいものの、烏帽子小屋～船窪小屋ルートはアップダウンが非常に激しくさらに標高が低いこともあり、展望のない中汗だくで虫と格闘しながらの行程はさながら修行のようでした。そして船窪岳第二ピークを過ぎたところで事件が。

私の前を歩いていた(らしい)S大学ワングル部5人組のうち、1名が掴んでいたルート上のロープがちぎれて滑落。直接その現場は見えていないのですが、歩いていたら彼らに追いつき騒然となっている現場に直面。事情を聞くとそういうことになっているということで、幸いなことに滑落した方に怪我はまったくなく、なんらかの方法で落ちた場所から登り返せば小屋まで辿り着けそうということでした。

追い越していくのもなんなので事の行く末を見守っていたところ、彼らが連絡した小屋の方からの一報でパトロールの人がロープを持って駆けつけてきました。これでなんとかなるね、なんてホッとしていたのですが、駆けつけたパトロールの方が開口一番「こんな所でロープに頼るからこうなるんだ！」なんて言い出すので、「(そりやないだろう!)」と心の中で反論しつつ、「関係ない人はロープなしで通過して」と言われたので私はその場を通過。九死に一生を得た若者にあの一言はひどいな～、と、今でも思いますが、まあ確かにロープに頼るようなところでもなかったので一理あるかな、とも思います(でも言い方ってありますよね?)。

そんなこんなで汗だくの中船窪小屋にたどり着き、「命がけの水場」に水を汲みに行ったついでに顔と頭を洗ったのはいい思い出です。命がけの水場は冗談抜きで本当に凄まじい場所にある水場でしたが(片手では行けない)、雪解け水のような冷たさであれば本当に気持ち良かった!! テント場で仲良くなったおじさんにサンドイッチを恵んでもらい、夜まで休息。この日で持ってきていた小説「夜の国のクーパー」を読み終わってしまい軽く途方にくれたのも、今となってはいい思い出です。

■ 6 日目 (2016/8/14) ■

◇天気◇

終日快晴

◇行程◇

出発(5:00)→北葛岳(7:09)→蓮華岳(9:11)→針ノ木小屋(10:20)

※コースタイム比: x0.92

6 日目。非常に短い行程ですが、この日もまた楽しく歩けた一日でした。行程上「蓮華の大下り」を逆に登ったのですが、この山がまた岩々としていて、前日知り合ったおじさんが「プチ穂高」と称していたとおり実に登り甲斐のある山でした。気分よく登っていったらガスが出てきそうな雰囲気になったので(結果的に出ませんでしたが)、景色のいいうちに山頂に！ということで早足に。

あっという間に着いた山頂から見た景色(左写真)は素晴らしいの一言。槍ヶ岳、西鎌尾根、水晶岳、野口五郎岳、烏帽子岳、船窪小屋、そして小屋から蓮華岳までの道、と、ここ数日間の道が目の前に広がっており、息を吞んでその景色をボーッと眺めていました。また行きたい山の一つです。



ここからこの日の目的地である針ノ木小屋はすぐ近くで、山頂で会った人に「種池山荘まで行けるのでは？」なんて言われて相当悩んだ挙句、初志貫徹ということでこの日は午前中で行程を終えることにしました。針ノ木小屋はテント場が最高のロケーションにあり、テントの入り口を開けて見た風景はどんなホテルから見る風景よりも素晴らしいと今でも思います。

「天空の窓」と勝手に命名したこの窓から足を出して寝ていたら左足の人差し指をアブに刺されたのは内緒です。ここでもテント場のおじさんと仲良くなり、ワイワイ話しているうちに夜になり就寝。好天が続いたのはこの日までで、翌日以降は天気との戦いが始まります。

■7日目(2016/8/15)■

◇天気◇

曇り→(11:30 から)雨→(夜)快晴

◇行程◇

出発(4:00)→針ノ木岳(4:59)→スバリ岳(5:54)→赤沢岳(7:17)→鳴沢岳(8:03)→新越山荘(8:40)→岩小屋沢岳(9:17)→種池山荘(10:24)→爺ヶ岳南峰(11:05)→爺ヶ岳中峰(11:22)→冷池山荘(12:24)

※コースタイム比: x0.85

7日目。この日は朝から天気が悪く、今にも雨が降りそうでした。行程が長い日だったので、いち早く目的地の冷池山荘に着くべく朝 4 時出発。猛ダッシュで縦走路を駆け抜けましたが、結果的に爺ヶ岳中腹で強い雨に降られてしまいました。おかげで雨合羽とザックカバーがぐっしょり。

この日の行程中、新越山荘を越えたあたりで突然猿が現れたときは小熊かと思い心臓が止まるかと思うほど驚きました。ようやく見えてきた冷池山荘(下写真)。非常に立派な建物で、テレビも常時付いておりオリンピック開催中というのをこの日久しぶりに思い出しました。



到着後少し悩んだ末、今回の山行初の小屋泊まりをすることに決めました。到着してからも外の天気が良くなる兆しなかったのもありますが、翌日以降の行程を考えて乾燥室で雨合羽とザックカバーを乾かしたかったというの也有ります。

泊まった部屋には他にも 2 名男性がおりましたが、実にラッキーなことに布団が 1 人 1 枚な上に誰もイビキをかかない。おかげでグッスリ寝られました。この部屋で一緒になった男性 1 名とは、この後 2 日間行程がかぶることになります。夕食は自炊して前日までと同じく 20 時就寝。天候は 16 時くらいから安定し、夜の時点では星が見えていたので翌日に期待できました。

■8日目(8/16)■

◇天気◇

晴れ→(五竜岳登頂以降)曇り

◇行程◇

出発(4:08)→布引山(5:01)→鹿島槍ヶ岳(5:40)5分滞在→鹿島槍ヶ岳北峰(6:13)→キレット小屋(7:20)→北尾根ノ頭(8:48)→五竜岳(10:31)5分滞在→五竜山荘(11:14)

※コースタイム比: x0.77

8日目のこの日は朝から快晴でしたが、台風7号が近づいているという情報もあり前日のように雨に降られてはたまらないので早出をしさらに全力で飛ばして歩きました。食材が減り徐々にザックが軽くなってきたのか、縦走後半戦は飛ばすということが可能になってきました。4時に出てもさすがに鹿島槍ヶ岳のご来光には間に合わず、ご来光は鹿島槍ヶ岳を見上げる形で訪れました。山頂は快晴で、最高の見晴らしでした(左写真)。特に2日目に通った槍ヶ岳が見えたのが個人的には胸が熱くなったところで、槍から槍へ繋げたんだなあ、と1人感動でその場に立ち尽くしていました。遠方に槍ヶ岳、右の方に水晶岳、他ここまでに至る山脈が一望できます。いかんせん前日の行程が一日曇り+雨だったので近くに見える山はいまいちよく分からず、下山後に調べてようやくなんとなく分かりました。右の写真は同じく山頂から、これから向かう道、八峰キレット～五竜岳です。



急峻な八峰キレットを見て「カッコいい！」と思ったりキレット小屋を見て「よくこんなところに建てたな...」と感じながら、いつの間にか五竜岳取り付きへ。飛ばしたからか時間的には余裕がありつつも、念のためスピードは維持したまま行動。五竜岳の登りもゴツゴツしており面白く、楽しんでいる間に縦走路の頂点に到着。五竜岳の山頂は縦走路から外れているのでそこに向かったところ老夫婦が来ており、劔岳をバックに写真を撮ってもらいました。



この時点でいつの間にか雲がかなり来ており、道を埋め尽くさんばかりでした。山荘に到着した時点で辺りはガスまみれで、視界が非常に悪い状態。テントを張り、一息ついたところ隣にも1人テント泊の人が来て、例の如く仲良しに。話を聞いてみると、なんと順調に行けば数日後に通る栂海新道から来たとのこと！ついに栂海新道から来た人が現れたか...と、ここでまた1人感動していました。翌日晴れることを祈って、20時就寝。この祈りは天に届かなかったようで...

■9 日目(8/17)■

◇天気◇

午前 4 時～午後 15 時過ぎまで悪天候、以降曇ったり晴れたりが続き夜快晴

◇行程◇

一日停滞

午前 2 時くらいに強風がテントに当たる音で目覚め、風だけならと思っていたら午前 4 時くらいから大粒の雨。この日予定していた行程を天狗山荘まで短くすれば出発を遅くしても行ける、と朝 7 時くらいまで粘りましたが、全く止む気配なし。むしろ風も雨も強まるばかりで、いい加減テントにいられなくなったので小屋の前に行ってみると、この天候で突っ込む人たち(下写真)やら前日仲良くなった人が。



さらに、前々日冷池山荘で一緒にの部屋だった人もいて、なんでもその人はツェルトで寝ていたところ雨が凄まじすぎて朝 6 時に小屋に撤収し 1 泊小屋で泊まることを決めたとのこと。「冷池、五竜、と小屋泊ばかりで災難ですね」なんて話をしつつ、自分のテントも結構浸水しており他人事ではない。梶海新道から来た人と一緒に「頼むから止んでくれ」と祈りながら数時間。午後 1 時くらいにようやく小康状態になり、午後 3 時にようやく雨が止む。そして午後 4 時前ついに青空がのぞく！



晴れたおかげでみんなの顔も一斉に晴れ間に。



五竜岳含む辺り一面は午後 7 時くらいまで雲が隠れたり出てきたりしていました。

そして午後 7 時。ツェルトから避難した彼から「外すごい景色ですよ！」と声をかけられテントから出してみると、いつの間にやら凄まじい快晴。10 時間以上テントの中で「止まない雨はない」と念仏のように唱えていた 1 日が報われた瞬間でした。台風一過、という言葉が頭を過りました。

余談ですがこの日昼間に小屋で談笑していたら購買意欲が湧き、有名？な五竜山荘オリジナル「山が好き酒が好き」Tシャツを購入。山の日制定記念でザ・ノース・フェイスとコラボした限定版があり、そちらを選び買った瞬間に T シャツを着替えました。また、この五竜山荘、コンセントもしくは USB の充電が 60 分間無料で、2 泊滞在したので 2 回フル充電させてもらい大変助かりました。ありがとうございました。

終わり良ければすべて良し。こうして停滞日が終わりました。

■10 日目(8/18)■

◇天気◇

晴れ→(テント場到着後)雨→(夜)晴れ

◇行程◇

出発(4:15)→唐松山荘(5:56)→唐松岳(6:11)→天狗山荘(9:36)15分休憩→鑓ヶ岳(10:37)→[やや道迷い]杓子岳(11:37)→白馬頂上宿舎(12:23)

※コースタイム比: x0.77

10 日目、ついに二桁です。朝は快晴でしたが、前日の情報で「台風は去ったけど前線が残った」みたいな話もあったので、晴れているうちに目的地に到達すべくこの日も早出。朝のうちは怪しい雲はあるものの晴れていました。ここから先はガスったり晴れたりを繰り返していたのですが、天狗山荘で鑓ヶ岳を見たのを最後に天気は完全に曇りに。



このあとはどんどん雲行きが怪しくなっていたので飛ばしていたのですが、杓子岳の行き方がイマイチ分からず少しタイムロス。杓子岳を降りた時点でいよいよポツポツ来たので、最後の 1 時間 10 分(コースタイム)を飛ばしに飛ばし 35 分で突破し目的地の白馬頂上宿舎に到着。ダッシュでテントを張ったら間髪入れずに雨が降り出しました。この雨がかなりしぶとく、記録は取っていませんが 17 時くらいまで降っていたと記憶しており、テントの中に軽く浸水していました。

小康状態が続いていましたが午前 3 時前にトイレに行った際空を見たら見事な星空で、ホッとしました。余談ですがこの日「夜の国のクーパー」2 周目を読み終えました。

■11 日目(8/19)■

◇天気◇

晴れ→(テント場到着後)雨が降ったり止んだり→(17:30 以降)晴れ

◇行程◇

出発(4:15)→白馬岳(4:55)15分滞在→三国境(5:36)→小蓮華山(6:10)5分滞在→雪倉岳非難小屋(7:58)→雪倉岳(8:36)→水平道分岐(10:35)15分休憩→朝日小屋(12:10)

※コースタイム比: x0.90

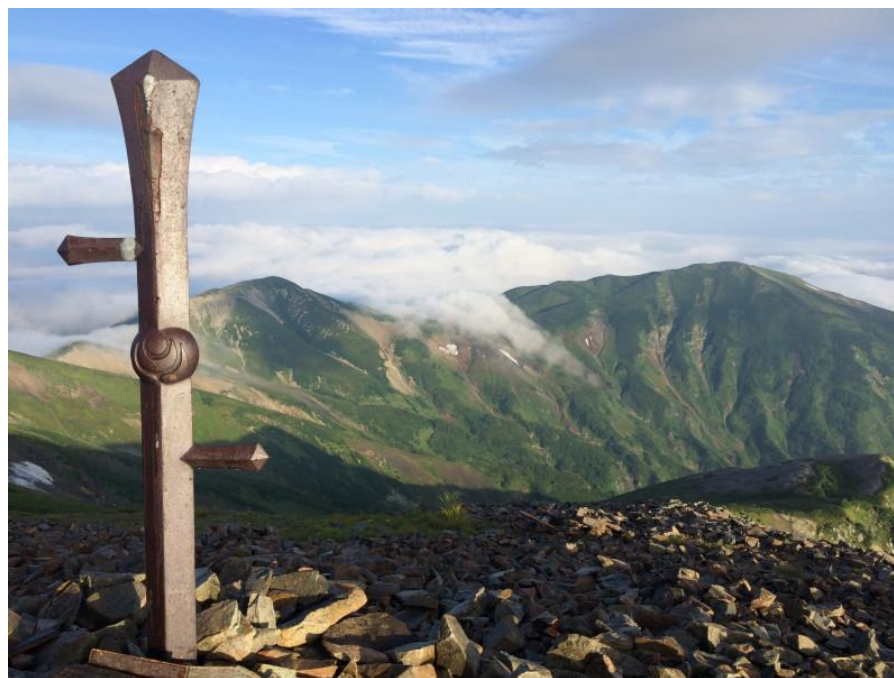
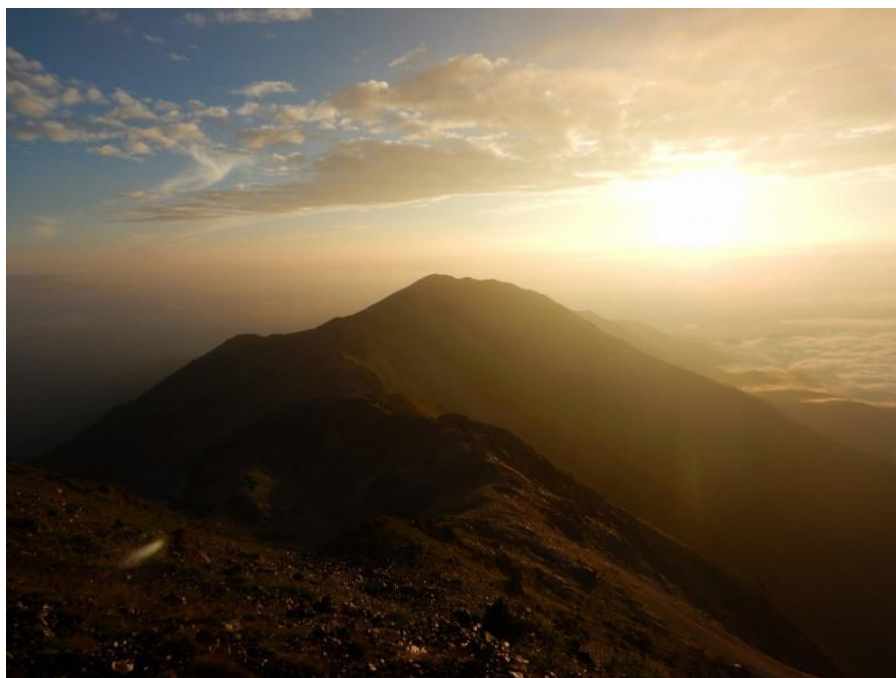
11 日目。せっかく晴れているので、テント場からすぐの白馬岳からご来光を見ようとこの日も例の如く早出。余裕でご来光前に到着し、ゆっくりと日が昇るのを待ちました。白馬岳は今回の山行で 7 座目の百名山でした。



そしてこの日は、今回の山行の目的地の一つである新潟の最高峰・小蓮華山へ。白馬岳からも見えており、朝焼けに輝く姿は非常に美しかったです(次ページ左下)。山頂には看板があるわけではなく、次ページ右下の写真のような剣が立っていました。小蓮華山で少しのんびりし、出発。雪倉岳に向かう途中の鉢ヶ岳を巻いているあたりからだんだん雲行きが怪しくなり、辺り一面ガスまみれに。雨が降ったらやばいぞ！と、急いで雪倉岳まで行きました。

が、この後がとにかくキツかった！ここまでの厳しさトップが烏帽子小屋～船窪小屋間なら、雪倉岳～朝日小屋間は間違いなく次点。急激に高度を下げ、そこから展望のない森の中をひたすら行くのは再び修行のようでした。小屋への最終アプローチである水平道も、どの辺が水平なのか登りばかりの道でした(地図には「大きくアップダウンを繰り返す」とあったのですが...)。水平道の最中に無駄に晴れてきて、「暑いよ！今はガスってくれ！！」とワガママなことを言っていたら本当にガスってくれて助かりました。

そんな水平道へのアプローチ直前、朝日岳との分岐点で休んでいたおじさんと話してみたところまさかの樽海新道を目指しているとのこと。しかも、上高地ではないにせよ笠新道から入っており、9 日目ということで意気投合。山には色んな出会いがあります。小屋に着いてからは霧雨のような雨がパラパラ降ったり止んだりしていましたが、夕方 5 時半過ぎにようやく落ち着き晴れ間が。残り 2 日！無事終われるよう祈りながら、就寝。



■12 日目 (2016/8/20) ■

◇天気◇

晴れ→(栂海山荘通過以降)曇り

◇行程◇

出発(4:15)→朝日岳(5:03)10分滞在→吹上げの科尔(5:37)→長栂山(6:06)→黒岩山(7:47)→サワガニ山(8:43)→犬ヶ岳(9:57)→栂海山荘(10:09)15分休憩→[黄蓮ノ水場で水確保]菊石山(11:52)→白鳥小屋(13:58)

※コースタイム比: x0.74

ついに下山開始となる12日目。とはいえまずは朝日岳に登る必要があります。この山行で何回目か分からないご来光を見に、またまた早出。標高が低いからか虫の量が凄まじい朝日岳山頂に、無事ご来光前に到着しました。次ページ左上の写真は妙高山から昇る太陽、そして栂海新道へと続く道となります。そこから振り返ると幻想的な月が見えていました(次ページ右上)。標識についに栂海新道の文字が見えたときは嬉しかったです(次ページ左下)。

ここからは標高が下がるにつれ気温が上がり、それと比例するように虫の量も増えどんどん厳しい道のりになりました。早く突破したいからかなり急ぎ足になり、コースタイムより3時間くらい早く栂海山荘に到着。栂海山荘ではついに海が見え、さらに水平線(この言葉を使える日をどれだけ待ったか)の彼方には佐渡島が！次ページ右下の写真、水平線の先に見えるが佐渡島です。小屋の人曰く「1年くらい通っているが見るのは初めて」とのことで、この日はかなり空気が澄んでいたのでしょうか。さらに、この日はまだ風がある方だったようで、前日はさらに蒸してうだるような暑さだったとのこと...ラッキーでした。

10時過ぎに目的地の栂海山荘に着いてしまったので、今回の山行で初めて初志貫徹を破り先へ進むことに。結果的にこの判断で正解でしたが、それにしてもここから白鳥小屋までの道のりは半端なく厳しかったです。暑さはさることながら、菊石山～下駒ヶ岳への尋常じゃない登り、そして下駒ヶ岳～白鳥小屋への異常なアップダウンの多さ。暑さ・虫の多さ・蜘蛛の巣・アップダウン、で正気を保つのが大変。「気が狂う！！」と思いながら、白鳥小屋に着いた時点で心底くたびれていました。菊石山～白鳥小屋間は今回の山行の中でダントツに一番きつかった「2時間」でした。ここまでで行動時間約10時間、結果的に今回の山行で一番長い連続行動時間となりました。

前日に会った名古屋のおじさんも「白鳥小屋まで行くかも」と言っていたので少し待ってみました。来る気配がなく、17時を過ぎたので「さすがにもう誰も来ないだろう」と無人の小屋で1人自宅みたいにぐっすりしていると、栂海新道を登ってきたという大学生の男の子(19)がいきなり登場。鹿島槍ヶ岳を目指しているということで、今回の旅最後の夜は彼と軽く語り合い終わりました。



■最終日(2016/8/21)■

◇天気◇

行動中は曇り、下山後晴れ

◇行程◇

出発(3:46)→坂田峠(5:16)→尻高山(5:42)→二本松峠(6:10)→梶海新道登山口(7:01)→日本海(7:07)

※コースタイム比: x0.65

待ちに待った最終日。本来予定していた梶海山荘から、というのは今思えば非常にしんどく、前日に白鳥小屋まで行っておいて大正解だったと思います。とにかく涼しいうちにスピーディに下山したかったので、今回の山行で一番早い3時台のスタート。早い分涼しかったのですが標高が低い分湿度が非常に高く、さらに蜘蛛の巣攻撃も執拗で気が滅入りながらぶっ飛ばして進むこと3時間。林の先についに海が見えてきました。そしてそこから進むこと約10分、時刻は午前7:07...



ついに日本海に到達、長い旅がこれで終焉を迎えました。体力的には意外とまだまだやれそうで、今回の山行で自分の底力を知ったような気がします。今回はスマホ(iPhone)が大活躍で、地図を出す手間を省くため地図を写真で撮り待ち受け画面にしておいたり、ジオグラフィカというGPSアプリを使って自分の現在地を特定するために使用したりしました。

初日から最終日まで毎日感じていた事ですが、今回の山行での1番のハードルは「自分の不安な心」でした。滑落したらどうしよう...天候が急激に悪くなったら...体力が尽きてしまったら...等々。数え始めたらキリがない不安と毎晩毎晩テントの中で戦い、そして毎晩毎晩勝つ事で今回の山行を乗り切れたんだと思います。

縦走中に会った人には「重太郎新道+大キレットをあえて登ったところがすごい！」とよく言われましたが、奥穂高岳を経由したおかげで鷲羽岳や野口五郎岳の山頂から奥穂高岳を含む稜線がすば一ん！と見れたので、個人的には奥穂高岳経由にして大正解だったと思っています。